

—大河ドラマを楽しむために—

2021. 12. 12 本郷和人

◎大河ドラマで主人公に選ばれる人

- 1, 戦国時代か明治維新か
  - 2, 男女交互はやめたみたいだが しかし女性枠、強し
  - 3, 旬な人
  - 4, 男女関係が問題ない人
  - 5, 外交関係で面倒の無い人
- そうすると、次の大河は石田三成、藤堂高虎、津田梅子  
加藤清正、立花宗茂は5で引っかかるが・・・

◎大河を解説をする立場から

私は中世史研究者で、とくに鎌倉  
他の時代をどうするか

- A、戦国時代ならば、「信長・秀吉・家康」に寄せていく  
例) 明智光秀はなぜ本能寺？が中心になるので、  
信長の人事をとりあげる
- B、明治維新ならば、「日本史の大きな流れ」を意識する  
例) 渋沢栄一 『論語とそろばん』を取り出し、  
日本における商いと関連づけて捉える。
- C、近現代はお手上げ
- D、今回の大河は小細工なしで大丈夫、

或大福長者の言はく、「人は万をさしおきて、ひたふるに徳をつくべきなり。

第二一七段

貧しくては生けるかひなし。富めるのみを人とす。徳をつかんと思はば、すべからく、まづその心づかひを修行すべし。その心と言ふは、他のことにあらず。人間常住の思ひに住して、かりにも無常を觀する事なかれ。これ第一の用心なり。次に万事の用をかなふべからず。人の世にある、自他につけて所願無量べからず。所願は止む時なし。財は尽くる期あり。限りある財をもちて、かぎりなき願ひにしたがふ事、得べからず。所願心にきざす事あらば、我をほろぼすべき悪念来れりと、かたく慎み恐れて、小要をも為すべからず。次に、銭を奴のごとくして使ひもちる物と知らば、永く貧苦を免るべからず。君のごとく、神のごとく畏れ尊みて、従へもちるることなかれ。次に、恥に臨むといふとも、怒り恨む事なかれ。次に、正直にして約を固くすべし。この義を守りて利を求めん人は、富の来る事、火のかわけるにつき、水のくだれるにしたがふがごとくなるべし。銭積りて尽きざる時は、宴飲・声色を事とせず、居所を飾らず、所願を成ぜざれども、心とこしなへに安く樂し」と申しき。

ある大富豪が言うことには、「人間は万事をさしおいて、ひたすら利得を身につけるべきである。貧しくては、生きていけるしがない。富んでいる人だけが人間といえるのだ。所得を身につけようと思うなら、当然、まづその心がまえを修行しなければならぬ。その心がまえというのは、ほかのことではない。人間界のことは永久に不変であるという考えを変えないで、かりそめにも、この世は無常なものと観念することがあってはならない。これが第一の心がまえである。

## 北条義時と承久の乱

### ○北条氏とは何か

だいたい発音は？

伊豆国の国衙は三島と考えられる 国衙に仕える在庁官人

北条氏は系図がしっかりはしていない。

時政は「東国の豪傑」(吾妻鏡) 官職を持ってない。 c f 平六時定

時政の自筆の文書が残る ⇒ 素晴らしい字。

頼朝旗挙げの時に兵力は50人 c f 伊東氏

1185年、時政は1000の兵と供に上洛する

守護・地頭の設置 ⇒ これが今は、鎌倉幕府の成立

### ○義時について

母は誰か？ 伊東祐親の娘か？

だいたい、北条義時ではなく、江間四郎義時

時政は後妻の牧の方が生んだ政範が後継者 あるいは義時の次男の名越朝時

源頼朝の家の子の筆頭

### ○時政と義時

1199年の頼朝の死後に始まる時政・義時二人三脚での政争

1199年 13人の合議制

1199～翌年 梶原景時排除

1203年 比企能員の排斥 源頼家の追放

1204年 義時が送った刺客、頼家を暗殺する

1205年 畠山重忠を討つ 平賀朝雅の誅殺 北条時政の排除

⇒武蔵国の掌握 義時、政所長官に

1213年 和田義盛らを討つ

⇒相模国の掌握 義時、侍所長官に

1219年 源実朝の暗殺

実行犯は公暁 黒幕は義時説、三浦説、後鳥羽上皇説

### ○承久の乱へ

1221年 後鳥羽上皇の義時追討宣旨

義時追討が鎌倉幕府討伐を意味するとはどういうことか。

- ・源頼朝も京都へ兵を進めたかったはず だが、富士川の戦いの後  
上総、千葉、三浦に止められる
- ・その上総広常は関東のこのことのみ ⇒ 頼朝は、やむなく誅殺した、と後白河上皇に
- ・承久の乱の結果、朝廷は武力を放棄し、鎌倉の勢力は京都に及ぶことになる。